

駅前広場計画指針改定の背景・目的と方向性

1. 駅前広場計画指針の概要
2. 駅前広場計画指針策定後の整備状況
3. 近年の状況変化・課題の整理
4. 改定案の方向性
5. 今後のスケジュール・進め方

●本日主にご意見をいただきたい事項

1. 駅前広場計画指針の改定にあたり、踏まえるべき状況変化や課題等に過不足はないか
2. 改定の全体構成について

1. 駅前広場計画指針の概要

- 駅前広場計画指針は、駅前広場を鉄道と都市を結ぶ交通結節点として位置づけ、バス・タクシー・一般車・歩行者等の安全かつ円滑な乗継機能の確保を目的として、機能設定、面積算定、配置計画等の基本的な考え方を体系的に示すものとして、平成10年に策定された。
- 都市の玄関口としての景観形成や快適性、防災性にも配慮した計画手法を示している。

駅前広場機能の設定

- ・ 駅前広場機能を「交通空間」と「環境空間」に分類
- ・ 交通空間：交通結節点としての交通処理機能
- ・ 環境空間：交流機能、景観機能、防災機能 等

駅前広場面積の算定

- ・ 交通空間と環境空間の総和として駅前広場面積を算定
- ・ 交通空間：バス乗降場やタクシー乗降場等の施設別に必要面積を算定
- ・ 環境空間：駅の位置づけや周辺土地利用等をふまえて面積設定

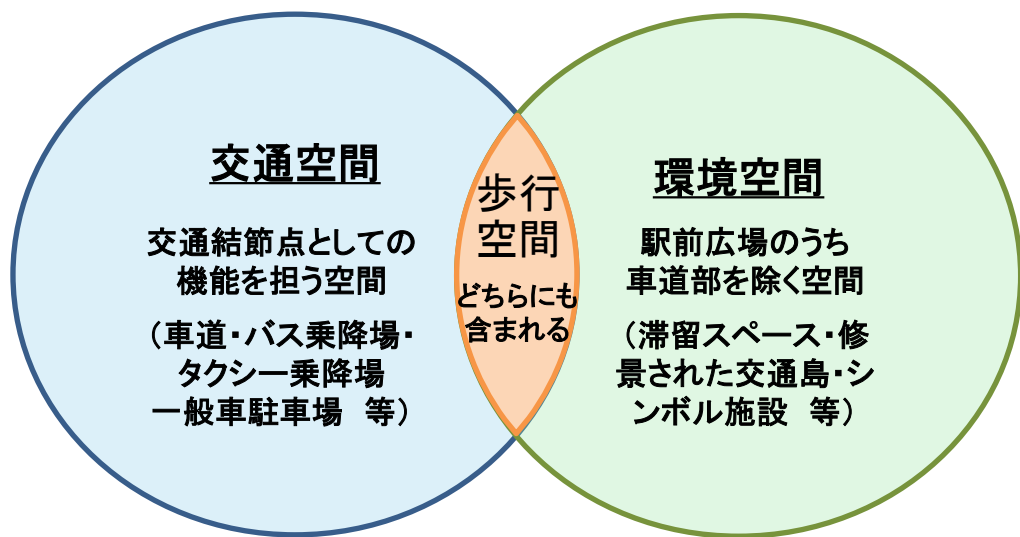
駅前広場の配置

- ・ 駅の性格や利用方法等を考慮し、交通の安全性・円滑性と都市の玄関口としての景観形成・環境空間づくりとの調和を考えて計画

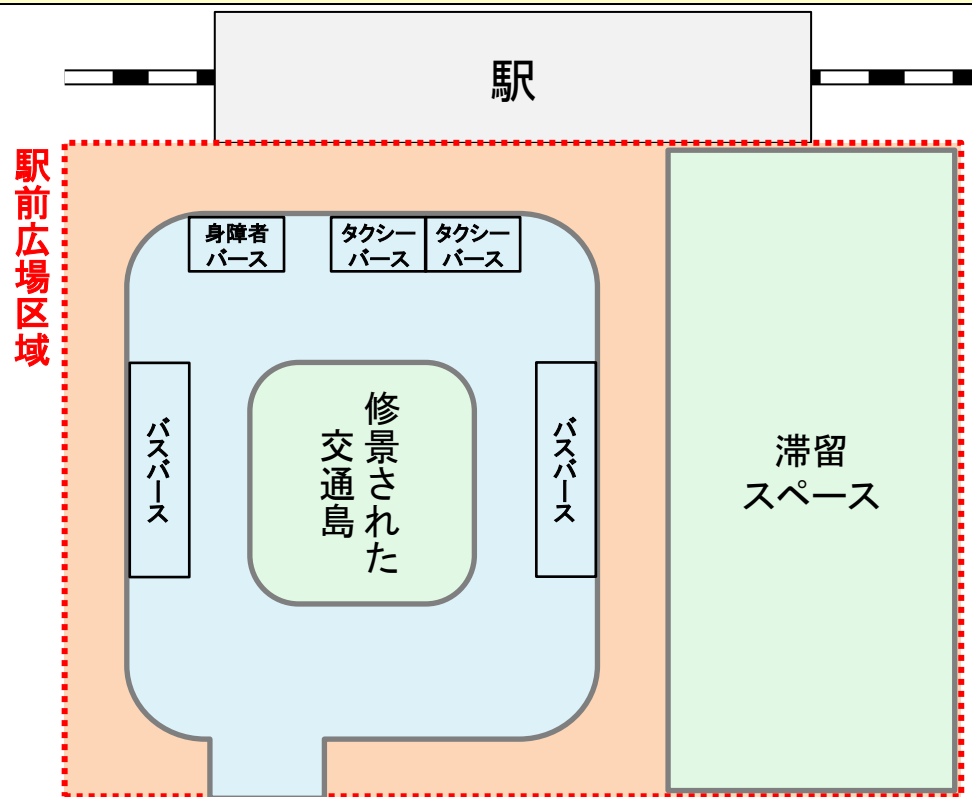


【参考】交通空間と環境空間について

- 駅前広場は、交通結節点としての機能を担う「交通空間」と都市の広場としての機能を果たす「環境空間」で構成されている。
- 「交通空間」と「環境空間」は駅や周辺市街地、都市全体の特性を踏まえ、求められる機能を果たせるように両者を適切に組み合わせて確保する必要がある。



「交通空間」と「環境空間」の関係と各構成施設



「交通空間」と「環境空間」の配置イメージ

駅前広場計画指針を参考に作成

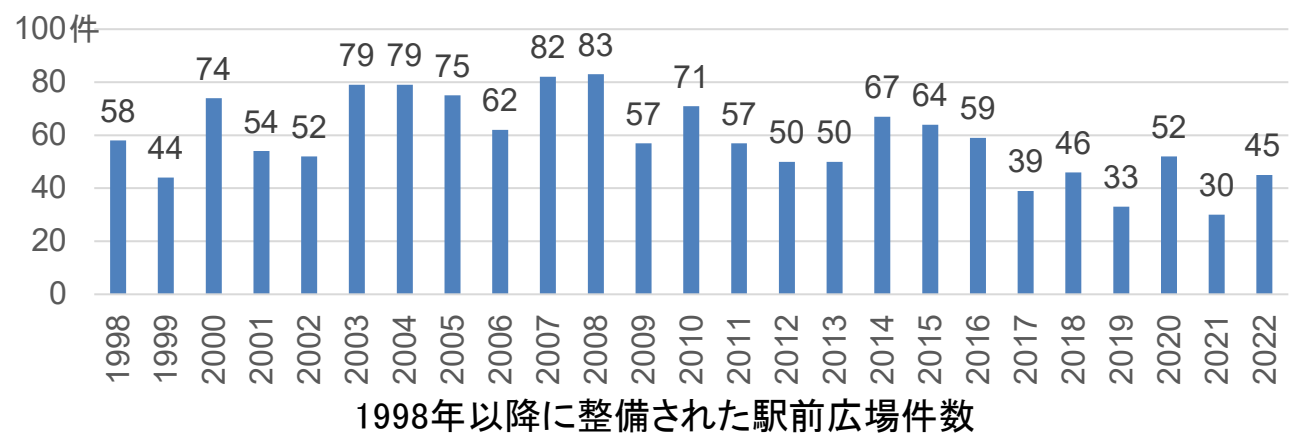
【環境空間比: 現行指針での定義等】

駅前広場面積に占める車道部を除く面積の占める割合
4,000～10,000m²程度の駅における標準的な値として0.5を設定

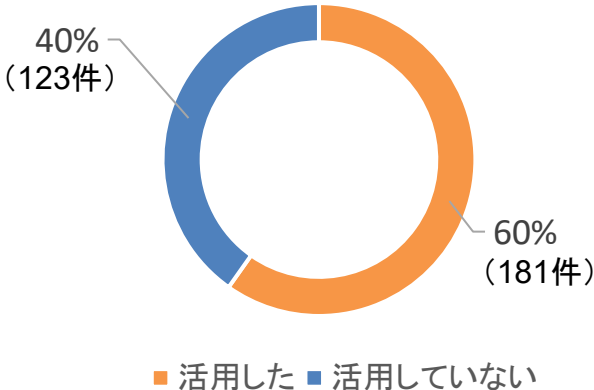
2. 駅前広場計画指針策定後の整備状況

(1) 1998年以降の駅前広場整備状況(再整備含む)

- 2000年代の整備件数が多いが、近年も一定数の整備が継続的に行われている。



出典：交通結節点（駅前広場及び自由通路）に関する実態調査
 （国土交通省都市局街路交通施設課 令和4年度実施）より作成



駅前広場計画指針(98年式)の活用状況

（国土交通省都市局都市計画課都市計画調査室
 令和6年度自治体アンケート調査より）

(2) 駅前広場の整備事例

■福井駅西口広場



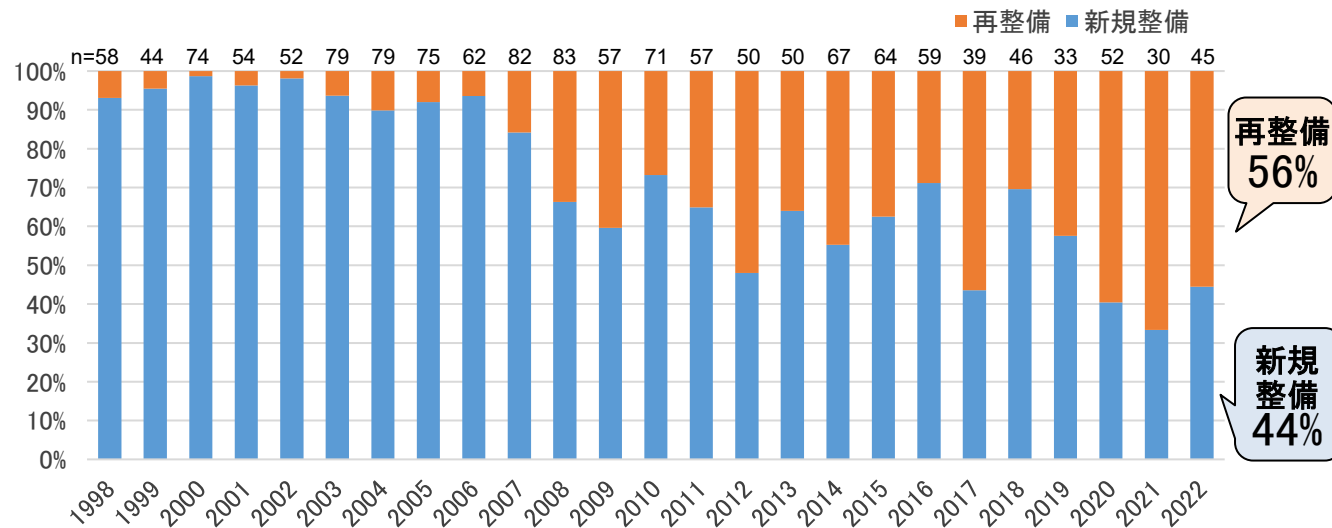
出典：交通結節点（駅前広場及び自由通路）に関する実態調査（国土交通省都市局街路交通施設課 令和4年度実施）より作成

3. 近年の状況変化・課題の整理

(1) 駅前広場をとりまく社会情勢の変化

① 駅前広場再整備の主流化

- 1998年から2000年代前半にかけては新規整備が大半であったが、2000年代後半以降、再整備件数の割合が増加傾向にある。
- 現行指針は新規整備を想定した記載のみとなっており、再整備に関する記載の追加が必要。



駅前広場の新規整備・再整備 割合の推移

出典: 交通結節点(駅前広場及び自由通路)に関する実態調査(国土交通省街路交通施設課 令和4年度実施)より作成

② パブリックスペースとしての期待の高まり

- with／afterコロナを背景に、パブリックスペースへの期待が高まり、駅前広場にも多様な機能や居場所の創出が求められている。
- 従来の交通処理中心の考え方に加え、滞在空間やイベント・カフェ等による交流機能の導入事例が増加している。
- さらに、まちの拠点エリアとしての魅力・快適性の向上や、デザイン・景観面の質向上が求められ、地域経済活性化、生活の質向上への寄与が期待されている。



THE J 自由が丘Marche

3. 近年の状況変化・課題の整理

(1) 駅前広場をとりまく社会情勢の変化

③ 多様なモビリティの登場

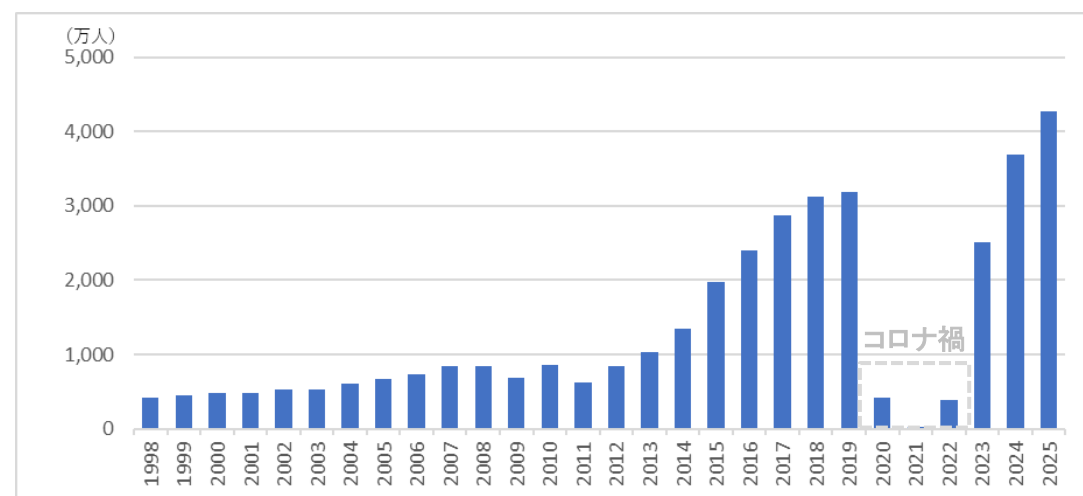
- ・シェアモビリティやパーソナルモビリティ、グリーンスローモビリティ等の新たなモビリティが登場している。
- ・駅前空間においては交通結節点としての利便性向上に加え、交通効率の向上や環境負荷低減に資する役割が期待されている。



シェアサイクル(岡山県岡山市)

④ インバウンド需要の拡大

- ・近年、訪日外国人の増加に伴い、インバウンド需要の拡大が見られる。
- ・駅前広場は多様な利用者が集う交通結節点であり、近年の訪日外国人の増加に伴い、分かりやすい動線や案内、滞留・情報発信機能の強化が求められている。



年別訪日外国人数の推移(1998年以降)

3. 近年の状況変化・課題の整理

(1) 駅前広場をとりまく社会情勢の変化

⑤ 災害の激甚化・頻発化

- ・ 地震時には駅周辺に帰宅困難者等の多くの人滞留することが想定される。
- ・ 現行の駅前広場計画指針においても、駅前広場は防災活動拠点として位置づけられており、災害時における駅の役割は極めて重要である。



東日本大震災での帰宅困難者(新宿駅)

出典:総務省消防庁「平成23年版 消防白書(平成23年12月)」



街路灯

フェーズフリーの観点から、災害時にも歩行者などの安全性を確保するため、調布駅から一時避難所となるグリーンホールへ向かう歩行者動線に蓄電式の街路灯を設置します。



ソーラー街路灯
出典: Panasonic株式会社

防災設備が導入されている駅前広場(調布駅)

出典:調布市「調布駅前広場整備計画図」

⑥ デジタル技術の進展

- ・ データ・デジタル技術の活用を通じて社会経済状況の激しい変化に柔軟かつ素早く対応するため、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進が図られている。
- ・ 人々が集まる空間である駅前広場や駅周辺は、多様な情報が集積しやすい空間でもあることから、サイバー空間上の拠点としてのポテンシャルを有している。



つながる (5G・高速Wi-Fi)

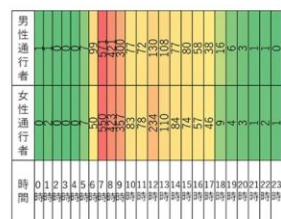


自動配送ロボット



自動運転タクシー

見える (人流カメラ等)



4号街路(都議会堂北)の1日の歩行者数。朝通勤時間帯(7時台)が混雑ピーク

混雑状況

伝わる (サイネージ)



5G搭載スマートポール

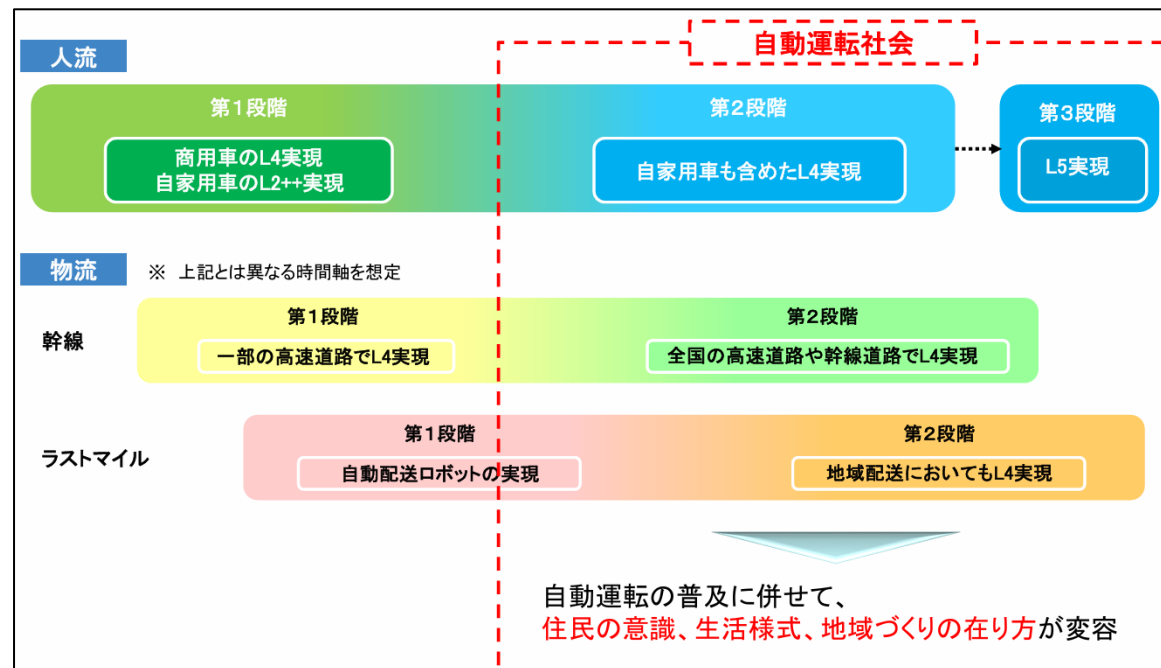
出典:東京都 デジタルサービス局 「西新宿の新たな生活を支える5G搭載スマートポール」

3. 近年の状況変化・課題の整理

(1) 駅前広場をとりまく社会情勢の変化

⑦ 将来的な自動運転社会の到来

- ・ 自動運転技術の進展により、将来的な自動運転社会の到来およびそれによる社会変容が想定される。
- ・ 駅前空間は単なる乗降の場にとどまらず、交通・滞在・交流機能を含めた総合的な役割が求められており、自動運転社会が到来した際には、空間の利用ニーズが変化すること考えられる。



自動運転が導入された駅まち空間のイメージ

出典：国土交通省「都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集（令和7年5月）」

自動運転社会への道筋

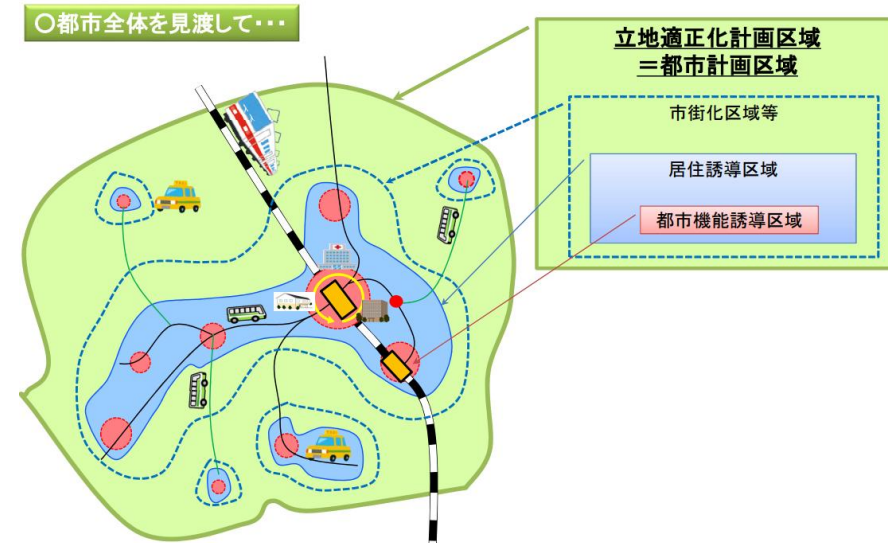
出典：国土交通省 自動運転社会実現本部 第3回会議「参考資料（令和8年6月8日）」

3. 近年の状況変化・課題の整理

(2) 都市政策の状況

① コンパクト・プラス・ネットワーク

- 人口減少・高齢化・環境負荷低減・市街地縮退といった課題が進行する中、駅周辺はコンパクト・プラス・ネットワークの拠点として、重点的に施策を展開すべき場と捉えられる。
- また、市街地の縮退に伴い、駅前空間には地域住民の交流を支えるコミュニティ空間としての役割が求められている。一方で、郊外部などでは、円滑な乗り換えを担う交通結節点としての機能が重視される場合もあり、地域特性に応じた役割の設定が求められる。



コンパクト＋ネットワークのイメージ

出典：国土交通省「立地適正化計画の説明会資料（平成27年6月1日）」

② ウォーカブルなまちづくりの推進

- 過度なモータリゼーションや価値観の変化（モノ消費→コト消費）を背景に、街路などのパブリックスペースを人中心の空間へ転換し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の実現が求められている。
- こうした取組は、地域の魅力向上に加え、健康増進や環境負荷軽減、コミュニティ活性化に寄与し、持続可能なまちづくりの一環として重要視されている。



ウォーカブルなまちなかのイメージ（東京丸の内通り）

3. 近年の状況変化・課題の整理

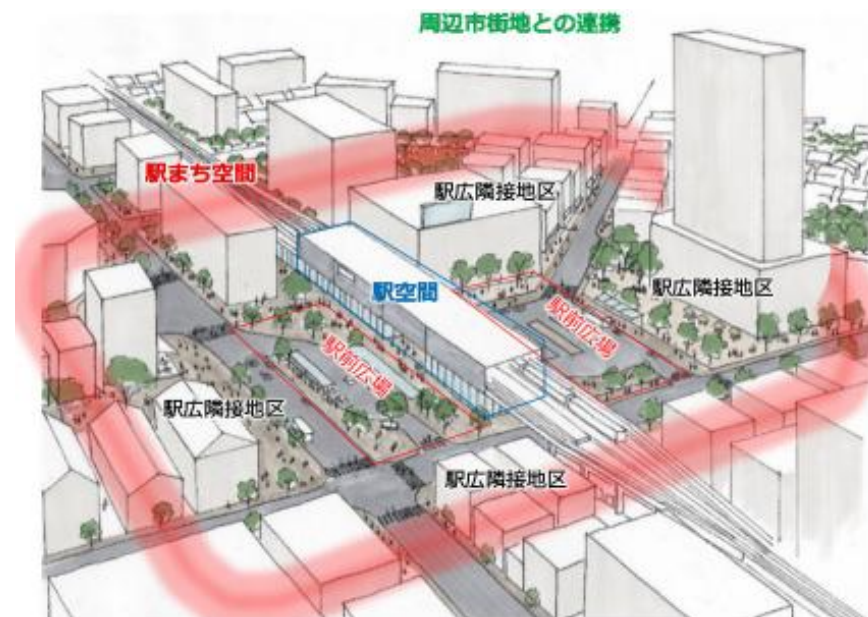
(2) 都市政策の状況

③ 駅まちデザインの登場

- コンパクト・プラス・ネットワークなまちづくりにおいて中心となる機能の一つに、駅を核とした交通結節点があげられる。一方で、整備後の時間経過により拠点機能低下や混雑の問題が顕在化している駅前も存在している。
- このような課題に対応するため、交通結節点や周辺施設を個別にとらえるのではなく、駅・駅前広場・駅広隣接地区および周辺市街地を一体的にとらえて対応を検討する「駅まちデザイン」の考え方が登場している。



駅まち空間のイメージ



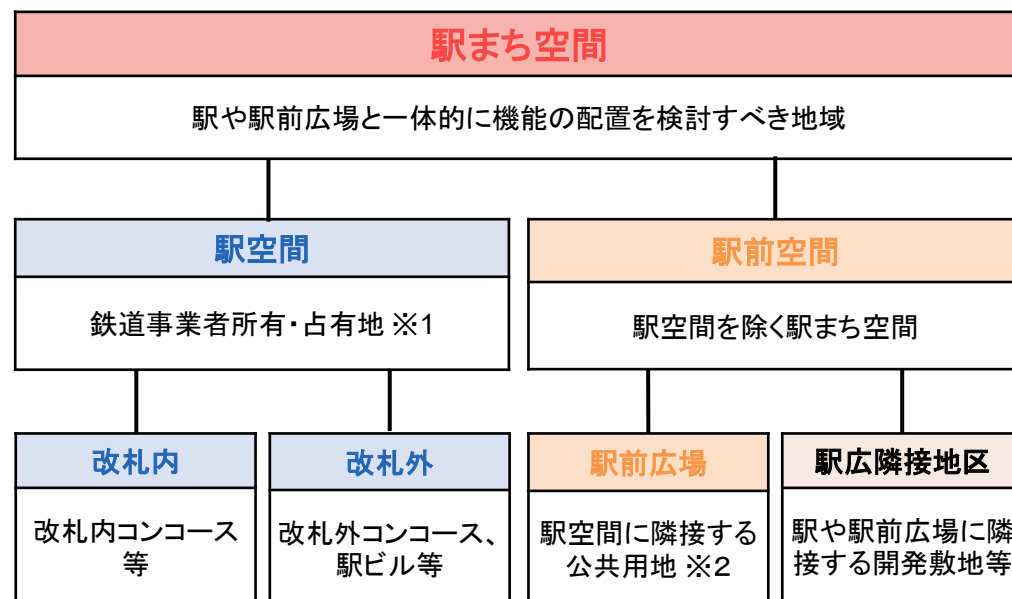
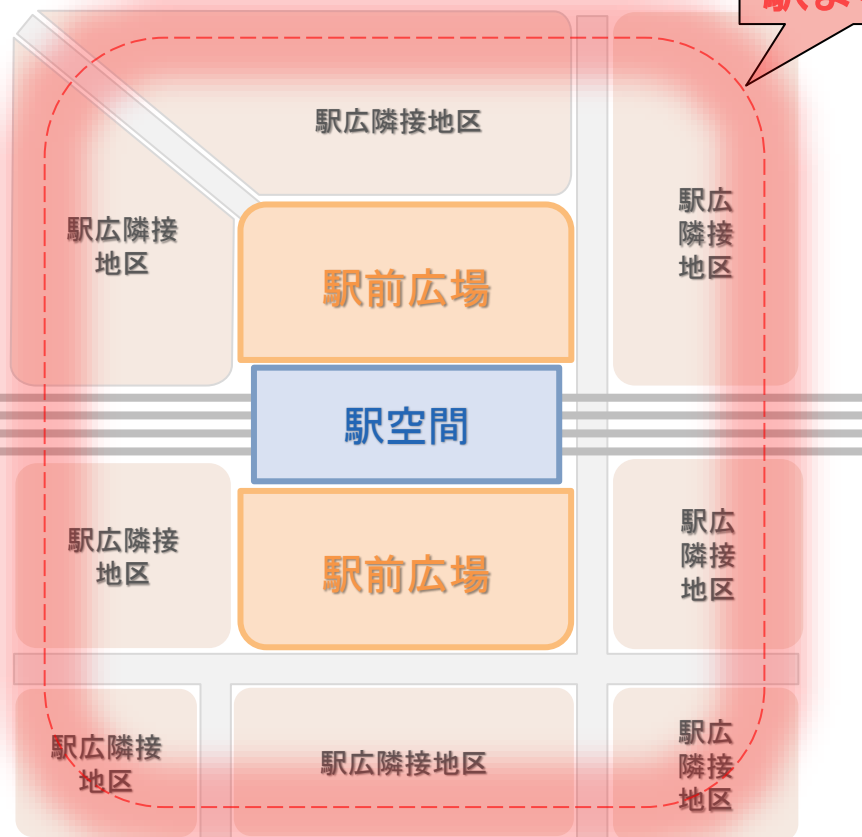
駅まち空間の要素

【参考】「駅まち空間」と「駅前広場」の対象範囲について

- 「駅まち空間」とは、駅空間や駅前広場と一体的に必要な機能の配置を検討することが期待される空間である。
- 「駅まち空間」の対象範囲は、駅空間（改札内外）＋駅前広場＋駅広隣接地区である。また、まちの利便性・回遊性・賑わいなどを向上させる観点から、「駅まち空間」とさらに外側の周辺市街地との連携にも留意する必要がある。
- 「駅前広場」は「駅前空間」のうち駅空間に隣接する公共用地である。

周辺市街地との連携

駅まち空間



※1 協定駅前広場は除く

※2 協定駅前広場内の鉄道事業者所有・占有地を含む

「駅まち空間」の範囲

「駅まち空間」と「駅前広場」の対象範囲

3. 近年の状況変化・課題の整理

(3) 現行指針への自治体意見・ニーズ

- ・ 指針を実務で使用する自治体からは、数値基準や状況変化等に関して、以下のような意見が挙げられている。

① 数値基準に関する意見・ニーズ



再整備の場合、現在の施設数・面積と算定結果が乖離してしまい、検討に苦慮。



環境空間比0.5ではウォーカブルな空間構築には不十分。



再整備等で限られた空間の中では環境空間比0.5の確保が難しい。



一般車平均停車時間「1分」について、実態と合っていない。

② 状況変化に関する意見・ニーズ



機能の分散配置など、駅まちデザインの考え方を反映させてほしい。



将来の技術革新を見据えたゆとりある空間の確保について記載してほしい



新たなモビリティに関する記載を入れてほしい。

4. 改定案の方向性

(1) 改定の方針

- ・ここまで「近年の状況変化・課題の整理」として整理した“社会情勢の変化”“都市政策の状況”“現行指針への自治体意見・ニーズ”を踏まえると、実務者のニーズを汲み取りながら、社会的潮流に柔軟に対応するために指針の見直しを行う必要がある。

●近年の状況変化・課題の整理

(1) 駅前広場をとりまく社会情勢の変化

- ① 駅前広場再整備の主流化
- ② パブリックスペースとしての期待の高まり
- ③ 多様なモビリティの登場
- ④ インバウンド需要の拡大
- ⑤ 災害の激甚化・頻発化
- ⑥ デジタル技術の進展
- ⑦ 将来的な自動運転社会の到来

(2) 都市政策の状況

- ① コンパクト・プラス・ネットワーク
- ② ウォーカブルなまちづくりの推進
- ③ 駅まちデザインの登場

(3) 現行指針への自治体意見・ニーズ

- ① 数値基準に関する意見・ニーズ
- ② 状況変化に関する意見・ニーズ



●駅前広場計画指針改定の方針

1. 社会情勢の変化や都市政策の状況等に対応した駅前広場のあるべき姿を定義し、基本理念をアップデートする。
2. 新たな基本理念に合わせた計画・設計ができるよう、計画手法および設計基準について必要な見直しを行う。

4. 改定案の方向性

(2) 改定版の構成案について

- ・ 現行の駅前広場計画指針の「基本理念」、「機能設定」、「面積算定」、「配置」の考え方をアップデートするとともに、上流段階での「駅まちデザイン」の考え方の導入や、自動運転等の技術革新を見据えた対応について新たに章を設ける方向で検討

章立て	状況の変化・課題	改定の方向性
1章： 駅前広場計画の考え方	・ 基本理念に関わる社会情勢が変化	➤ 社会情勢の変化に対応した駅前広場のあるべき姿を定義し、<u>基本理念をアップデート</u>
2章： 章追加 駅まち空間としての検討・駅まち像の設定	・ 「駅周辺まちづくり」の視点が不足	➤ 「<u>駅まちデザイン</u>」の考え方を導入するとともに、「<u>目指す駅まち像</u>」の設定に関する記載を追加
3章： 駅前広場機能の設定	・ 公共空間の利活用が多様化 ・ 新たなモビリティの登場	➤ <u>交通空間機能および環境空間機能のアップデート</u>
4章： 駅前広場面積の算定	・ 再整備に関する面積算定方法が不足 ・ 公共空間の利活用が多様化 ・ インバウンドの増加等、利用方法の変化 ・ 新たなモビリティの登場	➤ <u>再整備に関する面積算定方法を追加</u> ➤ <u>交通空間および環境空間の面積算定方法更新</u>
5章： 駅前広場の配置	・ 駅まち空間全体での検討を踏まえた、柔軟かつ効率的な配置の考え方・事例の不足	➤ <u>駅まちタイプ別の機能配置と柔軟な空間活用の導入</u>
6章： 章追加 自動運転等の技術革新を見据えた検討のあり方	・ 自動運転社会の到来が予見	➤ <u>自動運転社会や今後の技術革新を見据えた対応について追加</u>
参考資料	・ 施設原単位・参考値の実態との乖離 ・ 計画を進めるうえでの留意点の記載が不足	➤ <u>実態に合わせた施設原単位・参考値のアップデート</u> ➤ <u>計画の実現に向けた、事例等の追加更新</u>

5. 今後のスケジュール・進め方

第1回

- 指針改定の背景・目的
- 改定版の全体構成について

第2回

- 改定版の全体構成について(第1回検討会意見反映)
- 駅前広場に必要な機能について
- 自動運転社会を見据えた検討や新モビリティへの対応について
- 交通空間数値基準(原単位・参考値等)見直しに向けた調査方針について
- 環境空間の現状分析について

第3回

- 交通空間数値基準(原単位・参考値等)に関する調査結果について
- 環境空間に関する改定方針について
- 駅前広場の配置計画について

第4回

- 交通空間数値基準(原単位・参考値等)の改定方針について
- 指針・解説の改定案について

第5回

- 指針・解説の改定案について(第4回検討会意見反映)